

令和 8 年度

教育委員会点検評価報告書
(令和 7 年度対象)

令和 8 年 9 月

大鰐町教育委員会

目 次

I	点検・評価の概要	1
II	点検・評価の対象及び方法	1
III	評価委員	1
IV	評価委員会	1
V	令和7年度 大鰐町の教育	1
	1 大鰐町が目指す町の姿	
	2 大鰐町教育委員会の基本方針	
	3 令和7年度 大鰐町教育方針体系図	
VI	教育委員会の活動状況	3
	1-1 教育委員の構成（令和7年4月1日現在）	
	1-2 教育委員の構成（令和8年3月31日現在）	
	2 教育委員会会議の開催状況	
	3 教育委員の行事等参加状況	
VII	主要施策の点検・評価	7
	1 学校教育の推進	
	2 社会教育の推進	
	3 文化財の保護活用	
	4 生涯スポーツの振興	
VIII	令和7年度 主な事業と経費及び成果等	31
IX	評価委員による点検・評価	37

I 点検・評価の概要

趣 旨

地方教育行政の組織及び運営に関する法律で、教育委員会は、毎年その権限に属する教育行政事務の管理及び執行の状況について点検・評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに公表することが規定されております。

この法律の規定により、大鰐町教育委員会では、今後の効果的な教育行政の推進及び町民への説明責任を果たしていくために教育に関する点検及び評価を実施し、報告書にまとめました。

II 点検・評価の対象及び方法

点検・評価の対象は、前年度に管理及び執行した事務のうち大鰐町主要施策に基づく重点の事務事業を教育委員会が自己評価しました。

A…達成している、B…ほぼ達成している、C…やや達成していない、D…達成していない

III 評価委員

- ・藤田昇治（元弘前大学生涯学習教育研究センター副センター長
兼大学院地域社会研究科准教授）
- ・笹田和夫（元中学校校長）

IV 評価委員会

- ① 令和8年7月28日（火）
- ② 令和8年8月10日（月）

V 令和7年度 大鰐町教育

1 大鰐町が目指す町の姿

わになって みんなポカポカ 大鰐町

- ①助け合いで健やかな笑顔を育む
- ②豊かな心と学びの人を育む
- ③チームワークで活力ある生業を育む
- ④安全で住みやすいまちを育む
- ⑤持続可能なまちづくり体制を築く

（第6次大鰐町振興計画より）

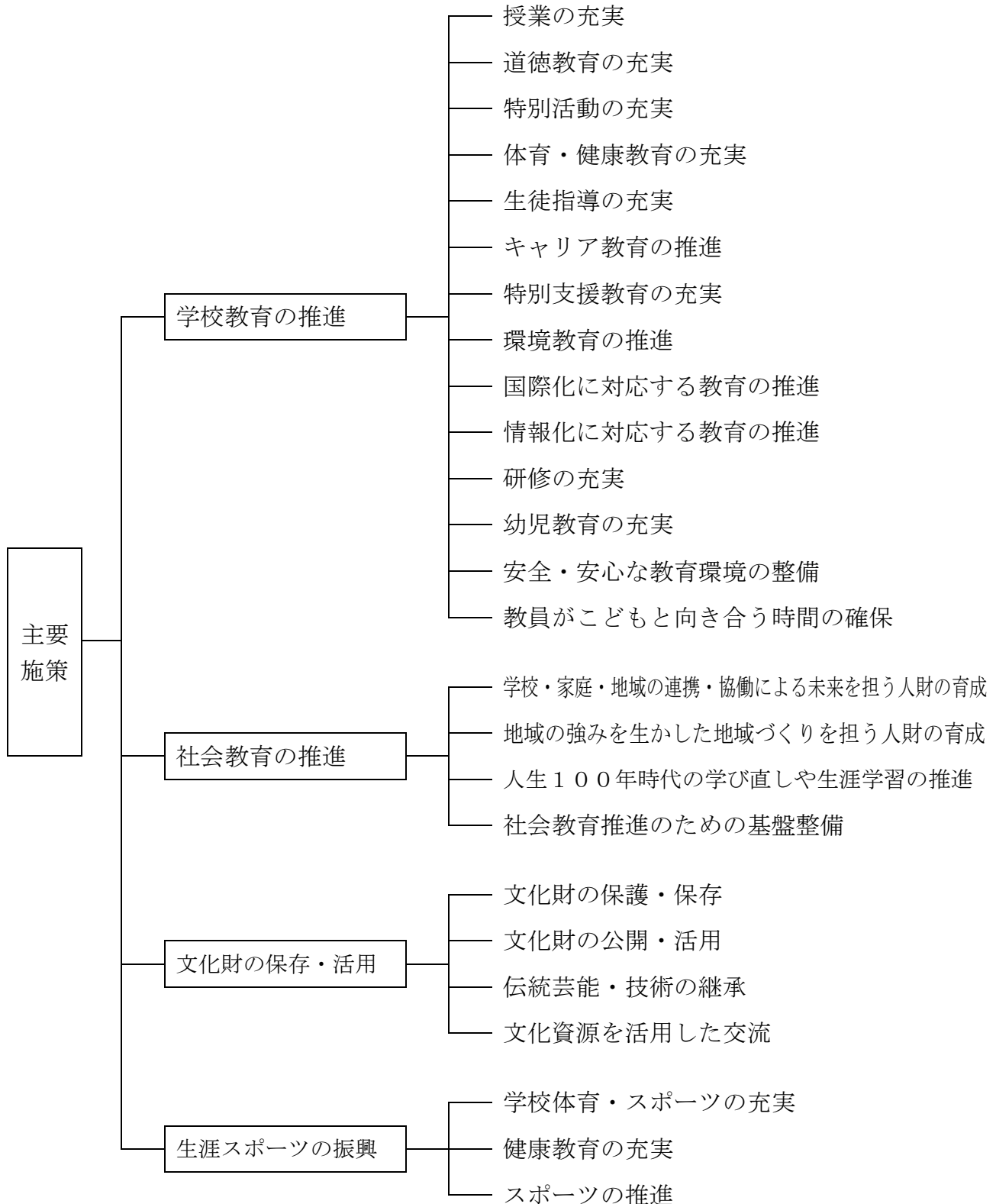
2 大鰐町教育委員会の基本方針

大鰐町教育委員会、その他関係機関・団体との連携を図りながら、町を育てる学力、町に生かせる学力を育てていきます。

豊かな心と学びの人を育む教育の振興

郷土に誇りを持ち、多様性を尊重し、想像力豊かで、新しい時代を主体的に切り拓く人づくり

3 令和7年度大鰐町教育方針体系図



VI 教育委員会の活動状況

1-1 教育委員の構成（令和7年4月1日現在）

役職名	氏名	委員としての任期	委員長及び教育長としての任期	備考
教育長	前田了二		R4.11.29～ R7.11.28	R4.11.29 就任
教育長 職務代理者	山口裕子	R3.12.25～ R7.12.24		R5.12.18 教育長職務代理者就任
委員	小西 祐	R6.10.29～ R10.10.28		H20.10.29 就任
委員	貴田 範子	R4.7.13～ R8.7.12		H23.7.13 就任
委員	佐藤和之	R5.12.18～ R9.12.17		R5.12.18 就任

1-2 教育委員の構成（令和8年3月31日現在）

役職名	氏名	委員としての任期	委員長及び教育長としての任期	備考
教育長	前田了二		R7.11.29～ R10.11.28	R4.11.29 就任
教育長 職務代理者	山口裕子	R7.12.25～ R11.12.24		R5.12.18 教育長職務代理者就任
委員	小西 祐	R6.10.29～ R10.10.28		H20.10.29 就任
委員	貴田 範子	R4.7.13～ R8.7.12		H23.7.13 就任
委員	佐藤和之	R5.12.18～ R9.12.17		R5.12.18 就任

2 教育委員会会議の開催状況

教育委員会会議は、原則として毎月1回「教育委員会定例会議」を開催している。
また、必要に応じて臨時会を開催し、令和7年度の定例会は12回開催している。

「地方教育行政の組織及び運営に関する法律」第13条及び「大鰐町教育委員会会議規則」の規定に基づき、令和7年度は以下の案件について審議及び報告事項による確認を行なった。なお、定例会では教育長に関わる業務内容を毎回報告し、教育委員間で認識の共有化に努めている。

開催日	件名
第1回 定例会 4月8日	報告事項1 業務報告 報告事項2 大鰐町教育委員会・事務局職員名簿 報告事項3 大鰐町スポーツ推進委員の委嘱について 議案第1号 教育財産の取得の件 議案第2号 教育財産の取得申出の件 議案第3号 教育財産の取得申出の件
第2回 定例会 5月12日	報告事項1 業務報告
第3回 定例会 6月2日	報告事項1 業務報告
第4回 定例会 7月3日	報告事項1 業務報告
第5回 定例会 8月4日	報告事項1 業務報告
第6回 定例会 9月1日	報告事項1 業務報告 議案第4号 令和7年度 教育委員会点検評価報告書（令和6年度対象） について
第7回 定例会 10月6日	報告事項1 業務報告
第8回 定例会 11月10日	報告事項1 業務報告 議案第5号 大鰐町アルペンスキー競技施設及びクロスカントリー競技 施設管理使用規則案
第9回 定例会 12月1日	報告事項1 業務報告

開催日	件 名	
第 1 0 回 定例会 1 月 1 3 日	報告事項 1	業務報告 大鰐町教育委員会教育長職務代理者の選任について
第 1 1 回 定例会 2 月 6 日	報告事項 1	業務報告
第 1 2 回 定例会 3 月 2 日	報告事項 1	業務報告
	議案第 6 号	大鰐町立学校の教育職員に関する業務量管理・健康確保措置実施計画について
	議案第 7 号	大鰐町立小・中学校教職員の働き方改革プランの策定について
	議案第 8 号	令和 7 年度文化活動表彰被表彰者の選考について
	議案第 9 号	令和 7 年度大鰐町スポーツ賞表彰被表彰者の選考について
	議案第 10 号	令和 7 年度大鰐町スポーツ奨励賞表彰被表彰者の選考について
	議案第 11 号	令和 7 年度学校教育活動表彰被表彰者の選考について
	議案第 12 号	令和 7 年度大鰐町立学校教職員賞表彰被表彰者の選考について

3 教育委員の行事等参加状況

教育委員は、教育委員会会議のほか、学校行事及び研修会に参加している。

期 日	行事・研修会等	場 所	参加対象委員
令和7年 4月7日	大鰐小学校及び大鰐中学校入学式	各学校	全委員
4月21日	南地方市町村教育委員会連絡協議会総会	黒石市みんなのホール	全委員
5月7日	大鰐町教職員全員研修会	大鰐中学校	全委員
5月18日	大鰐小学校運動会	大鰐小学校	全委員
5月23日	大鰐中学校運動会	大鰐中学校	全委員
6月25日	前期学校訪問 (大鰐小学校・大鰐中学校)	各学校	全委員
8月9日	大鰐町二十歳の集い	中央公民館	全委員
9月19日	南地方市町村教育委員会連絡協議会秋季研修会	田舎館村	全委員
10月17日	後期学校訪問 (大鰐小学校・大鰐中学校)	各学校	全委員
10月25日	大鰐小学校統合10周年記念式典	大鰐小学校	全委員
11月28日	大鰐小学校合唱・群読発表会	大鰐小学校	全委員
3月2日	大鰐町総合教育会議	中央公民館	全委員
3月12日	大鰐中学校卒業式	大鰐中学校	全委員
3月19日	大鰐小学校卒業式	大鰐小学校	全委員
3月21日	大鰐町教育委員会顕彰式	中央公民館	全委員

VII 主要施策の点検・評価

1 学校教育の推進

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
(1)授業の充実	<p>一人一人のこどもが、各教科及び総合的な学習の時間等において確かな学力を身につけることができるよう、目指す資質・能力を明確にするとともに、言語活動の充実を図りながら、一人一人の能力・適性に応じた指導と学習習慣の育成に努める。</p>	<p>【小学校】</p> <p>児童の学力の実態や今日的な教育課題、さらに昨年度の研究の成果と課題を踏まえ、校内研修の研究主題を「読解力を身に付け、考えを深める子どもの育成」とし、サブテーマを「共有する力を高める国語科・算数科の授業づくりを通して」と設定し、継続的に研究に取り組んだ。</p> <p>学力調査の結果を分析すると、国語科及び算数科においては、知識・技能、思考・判断・表現のいずれの観点においても、全国平均を上回る学年が多かった。</p> <p>また、「主体的・対話的で深い学び」の視点に立った授業改善を進めたことにより、自分の考えと他者の考えを関連付けて考えたり、自分の学びを振り返ったりする姿が見られるようになり、児童が自分の考えをより深める様子が確認できた。</p> <p>今後も、学級づくりと授業づくりを連動させ、学習規律や学習態度の育成を図るとともに、学習形態の工夫を通して協働的な学びを充実させ、児童の多様な考えを生かした授業を展開していきたい。</p>	A

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
		<p>【中学校】</p> <p>諸検査による学習状況の把握、「ユニバーサルデザイン」「個別最適な学び」「協働的な学び」の視点からの授業づくり、「単元指導計画の工夫」、「目標と指導と評価の一体化」を図った授業実践、家庭学習の内容と方法の工夫や習慣化などについて取り組みにより、生徒意識調査の結果では、授業への主体性、学習意欲、家庭学習の習慣化が身に付いたとする生徒が増えている。また、全体的な知能検査は偏差値46であるが、NRTの学力偏差値は50と生徒の頑張りがみられる。学習における個への対応が課題である。</p>	A
(2) 道徳教育の充実	<p>一人一人のこどもが、人間尊重の精神と生命に対する畏敬の念を家庭、学校、その他社会における具体的な生活の中に生かし、豊かな心を持つことができるよう、教育活動全体を通じて道徳性の育成に努める。</p>	<p>【小学校】</p> <p>週1時間の特別の教科道徳の時間では、物事を多面的・多角的に捉えられるよう、教科横断的な学習活動を取り入れながら指導を行った。令和4年度からは、道徳科を水曜日の5校時に全校で統一したことで、全校一斉に取り組む「全校道徳」の実施も可能となった。</p> <p>全校集会においても、道徳科の授業との関連を意識しながら、道徳教育の重点目標に沿った講話を行ってきた。</p> <p>今後も、学校行事や児童会行事、集会活動の目標や目的を明確にし、体験的な活動の充実を図ることで、児童の道徳性をさ</p>	A

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
		<p>らに育んでいきたい。</p> <p>また、学習参観日においても、道徳科の授業公開や人権教室の実施を積極的に行い、道徳性の育成につなげていきたい。</p>	
		<p>【中学校】</p> <p>全校体制での実践、授業の充実とすべての教育活動との関連付けることによる道徳性の育成、規範意識の醸成と郷土愛や感謝と思いやりの心をもった生徒の育成を目指して、授業づくりのポイントや評価内容・方法について共通理解を図った。また、学校行事、社会奉仕活動と関連させた道徳的な実践力の育成にも包めた。その結果、より多角的・多面的に生徒一人一人の豊かな心の育成に繋がった。</p>	A
(3)特別活動の充実	<p>一人一人のこどもが、様々な集団活動に自主的、実践的に取り組み、集団や自己の生活上の課題を解決することを通して、集団や社会における生活及び人間関係をよりよく築いていくことができるよう、必要な資質・能力の育成に努める。</p>	<p>【小学校】</p> <p>自己指導能力を育む学校生活を実現するため、児童一人一人の工夫やアイディアを大切にしながら、自治的・自発的な活動ができるよう、特別活動の計画と実践に取り組んできた。</p> <p>特に、ねらいに沿った集会活動や縦割り班活動、学校行事を実施することで、活動の活性化が図られた。「ようこそ1年生の会」や「全校遠足（校内オリエンテーリング）」はリーダー性を育む場となり、「6年生ありがとうの会」は全校児童が感謝の気持ちを伝える機会として、児童の心情面の成長にもつ</p>	A

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
		<p>なだった。</p> <p>また、今年度は統合10周年という節目の年でもあったため、全校で縦割り班ごとに旗を制作し、よりよい人間関係づくりにも取り組むことができた。</p> <p>今後も、集団や自己の生活上の課題を解決する過程で、合意形成や意思決定を行う経験を重ねることで、自分の生き方について考えを深め、自己実現を図ろうとする態度を育成していきたい。</p>	
		<p>【中学校】</p> <p>「話し合い活動の充実」「意図的な集団活動（縦割り、学年）による協働的な活動場面の計画的な設定」に重点を置き、「鰐中宣言」の見直し、「縦割り班によるテーマ別分科会」、「リーダー研修会」等様々な取組を実践した。その結果、委員会活動の活性化やリーダーの主体性の向上に加え、全校生徒一人一人の自立心と自律心を高めることができた。さらに、運動会や鰐中祭などで、縦割りの活動を意図的・計画的に設定したことにより、生徒の「自己肯定感」「自己有用感」の向上に繋がった。</p>	A
(4) 体育、健康教育の充実	一人一人のこどもが、生涯にわたって自ら進んで運動に親しみ、健康で安全な生活と豊かなスポーツライフを送ることができるよう、家庭や地域社会との連携を図りながら、心と体	<p>【小学校】</p> <p>全職員の共通理解のもとに、教科外体育の充実に取り組んだ。個に応じた課題を設定し、マラソンカードや縄跳びカードを活用したり、校庭の遊具や</p>	A

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
	を一体として捉え、健やかな体を育む教育の推進に努める。	<p>教具を設置し環境を整えたりして、意欲的に体を動かす機会を増やした。さらに、個人差に応じた言葉掛けや意欲付けにも配慮した(ポイント2倍デーの導入等)。その結果、朝の時間や休み時間には、仲間と一緒に進んで運動する児童が増えた。</p> <p>また、今年度も各関係機関の協力のもと、地域及び各学年の実態に応じた健康教育を行い、知識を獲得させたり、その様子を家庭に周知したりしながら、健康的な望ましい習慣を身に付けさせることができた。</p> <p>今後も、継続的に運動する機会を設けるとともに、昨今の健康教育の課題(メンタルヘルス、アレルギー疾患、性に関する指導等)を見据え、地域や家庭、PTA事業とも連携しながら取り組んでいきたい。</p>	
		<p>【中学校】</p> <p>SNSによるトラブル、動画視聴などによる生活習慣の乱れ、人間関係などにストレスを抱えるなどの課題が見られることから、「望ましい生活習慣や食習慣、ストレスマネジメント能力を身に付け、自ら健康な生活を実践できる取組」「情報を正しく判断し、自ら安全を確保することができる取組」に重点を置き、保健体育や家庭科の授業において取り組んだことで、「心身の健康づくり」の大</p>	A

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
		切さと必要性を理解させることができた。	
(5)生徒指導の充実	一人一人のこどもが、個性を発見し、自分のよさや可能性を伸ばすことができるよう、家庭や地域社会及び関係機関等との連携を図りながら、心の結びつきを基調として支えるとともに、問題行動・不登校等の未然防止、早期発見・早期対応に努める。	<p>【小学校】</p> <p>生徒指導の実践上の視点(自己存在感の感受、共感的な人間関係の育成、自己決定の場の提供、安全・安心な風土の醸成)を踏まえ、授業づくりを含む日常の学校生活の中で、児童に共感的に寄り添いながら指導・支援を行い、児童自身の自己指導能力の育成に努めた。</p> <p>児童や保護者の困り感や心配事には常に耳を傾け、誠実に対応するよう心がけてきた。児童向けの教育相談(ふれあい面談)では、事前アンケートを実施し、児童の思いに寄り添った生徒指導を行った。また、年3回の「情報交換会」では、適切な指導・支援や組織的な対応ができるよう、全職員で共通理解を図った。</p> <p>今後も児童理解を深めるため、一人一人の児童と教師がしっかり向き合い、分かる・楽しい授業づくりにも努めていきたい。</p> <p>さらに、いじめや不登校、問題行動等の未然防止、早期発見・早期対応を目指し、全教職員で全児童を多角的・多面的かつ組織的に指導・支援していきたい。</p> <p>また、不登校児童の安否確認や学びの保障の観点から、オンラインでの健康観察・授業、</p>	A

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
		A I ドリルの活用などにも引き続き取り組んでいきたい。	
		<p>【中学校】</p> <p>今年度の生徒指導の方針である、「子ども支援の視点に立った生徒指導」「困った（行動をする）生徒は、（課題を抱えて）困っている生徒」の2点に基づき取り組んだ。その結果、生徒意識調査では、先生と生徒及び生徒同士の人間関係が良好で、多くの生徒は安心して楽しく学校生活を過ごしていた。</p> <p>不登校傾向及び別室登校の生徒については、生徒に対する柔軟な対応や保護者・S C・関係機関との連携により、完全不登校生にはならず、継続的な支援に繋がっている。</p> <p>また、校内外において、いじめの重大事案はない。問題行動については、警察機関との連携を図っている事案が1件あるが、全体的には落ち着いた学校生活を過ごすことができた。</p>	A
(6) キャリア教育の推進	一人一人のこどもが、学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、社会的・職業的自立ができるよう、必要な基盤となる資質、能力の育成に努める。	<p>【小学校】</p> <p>キャリア教育全体計画を作成し、所属する集団やみんなのために働く経験、日常の活動の積み重ねを重視しながら、働くことの大切さや喜びに気付かせる指導を継続して行った。</p> <p>「キャリアパスポート」を活用し、家庭や地域の協力を得ながら、学年や発達段階に応じたキャリア形成と自己実現に向けた指導を進めた。</p> <p>町の清掃活動など、5・6年</p>	A

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
		<p>生を中心とした「OH!!鰐元気隊キッズ」の活動も継続して実施した。今年度も東京で販売活動を行い、参加した児童に充実感や達成感をもたせるとともに、故郷への愛情を育むことができた。</p> <p>また、PTA総務委員会が実施した「町活応援ワークショップ」は、看護師体験、介護体験、薬剤師体験、風船アート等、多種多様なジョブ体験ができ、参加した児童、保護者から好評であった。</p> <p>今後も、各学年・各教科の中で郷土学習に継続して取り組むとともに、関係機関・団体との連携・協働を深め、児童一人一人に応じたキャリア教育につながる実践を積み重ねていきたい。</p>	
		<p>【中学校】</p> <p>培いたい資質や能力を明確にしながら、特に学級活動や総合的な学習の時間での進路学習、各学年の体験学習（1学年「町内ではたらく人との対話集会」、2学年「職場体験」、3学年「ふれあいミーティング」）などを関連させることで、「働くこと」や「学ぶ意義」だけでなく、自己の生き方を振り返り、夢や生き方に触れる機会として工夫した。</p> <p>また、年度当初に全生徒がDream Boardに「なりたい自分」を掲げ、そのための具体的な方</p>	A

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
		法を考えることを通して、キャリアプランニング能力や進路実現に向けて努力する態度を育成することに努めた。	
(7) 特別支援教育の充実	発達障がいを含む障がいのあるこどもなど特別な配慮を必要とするこどもが、障がい等による学習上又は生活上の困難を主体的に改善・克服するとともに、その持てる力を最大限に発揮して自立や社会参加ができるよう、一人一人の教育的ニーズを把握し、適切な指導及び必要な支援に努める。	<p>【小学校】</p> <p>一人一人の児童の個性を生かし、可能性を最大限に伸ばすという視点に立ち、「個別の指導計画」や「個別の支援計画」に基づいた指導・支援を行った。</p> <p>児童理解を深め、合理的配慮を行いながら、保護者との面談を定期的実施した。その結果、保護者の学校への理解が深まり、信頼関係を基盤として支援の在り方を情報共有・共通理解することで、児童の望ましい成長を促すことができた。</p> <p>また、在籍学級と交流学級の担任間での日常的な情報交換も確実に行った。</p> <p>今後も、具体的な指導・支援の実施、家庭との密な連携、関係機関との協力、教職員研修の充実など、全職員の共通理解のもとで児童や家庭を支える体制を継続していきたい。</p> <p>さらに、通常学級に在籍し、困り感を抱える児童や保護者の相談にも迅速に対応できるよう、SC、SSW、関係機関等との連携を一層強化していきたい。</p>	A
		<p>【中学校】</p> <p>町の特別支援委員会や小中連携協議会等の機会を通して、小学校と綿密に情報交換を行い、保護者との連携を図りなが</p>	A

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
		<p>ら、指導や支援に努めた。特別支援学級に在籍する生徒については、個別の指導計画と教育支援計画を作成し、保護者に説明し承認を得た上で実践している。</p> <p>配慮や支援が必要な生徒については、職員会議や主任会議で一人一人の生徒の状況の確認及び対応について協議した。特に、具体的な支援方法については、生徒の困り感を踏まえて教育支援員によるＴＴの実施など迅速かつ柔軟に対応した。</p>	
(8)環境教育の推進	<p>一人一人のこどもが、環境と人間との関わりについて関心と理解を深め、環境に対する豊かな感受性を養うことができるよう、環境保全に主体的に取り組む態度の育成に努める。</p>	<p>【小学校】</p> <p>児童が日常的に安全・安心な学校生活を送れるよう、人的・物的環境の整備に努めた。今年度も、畑やフラワーポットで各学年に応じた花や野菜を育てる活動を通して、環境に対する感受性を育んできた。</p> <p>低学年では学校探検や町探検、中学年では町の産業や自然、高学年では「わがまち自慢」や町の歴史などを学ぶ学習活動を通して、環境への意識を授業の中で培ってきた。また、学校・家庭・地域が連携して資源回収を行ったり、校内環境美化計画に基づき教室の美化や掲示板の充実を図ったりした。</p> <p>今後も、身近な自然や社会環境に触れる機会を日常の授業の中に積極的に取り入れるとともに、愛校心を育むため、清掃活動にも力を入れていきたい。</p>	A

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
		<p>【中学校】</p> <p>新入生によるつつじ記念植樹、全校町内清掃ボランティア、校内清掃ボランティアなどを企画・実施した。</p> <p>また、生徒による日常の清掃活動は丁寧に行われるとともに、空き教室の整理整頓が徹底され、教室や廊下には生徒の振り返りや作品などの学習の足跡が掲示されるなど、望ましい学習環境が整えられている。</p>	A
(9) 国際化に対応する教育の推進	一人一人のこどもが、我が国や諸外国の文化と伝統について関心と理解を深めるとともに、国際社会に貢献できるよう、国際理解教育の推進に努める。	<p>【小学校】</p> <p>3・4年は週1時間、5・6年は週2時間の外国語活動及び外国語の時間を最大限に生かすようにした。町のALTを積極的に活用したり、動画や写真資料を用いる工夫をしたりした。コミュニケーションを図る活動や体験的な学習を通して、諸外国の文化や言語に触れ、多様性への理解を深めさせることができた。</p> <p>今後も、多様な文化に触れ、物事を多角的・多面的に捉える視点を育てるとともに、地元のまつりやイベントに積極的に参加し、故郷を愛する心をさらに育てていきたい。</p>	A
		<p>【中学校】</p> <p>校内に常勤のALTがいる恵まれた環境にある。生徒は授業だけでなく、昼休み休憩室での交流などで日常的にALTと接している。また、英語弁論大会等の指導にも尽力してく</p>	A

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
		れており、生徒の国際理解を深め、英語によるコミュニケーションへの関心・意欲を高めてくれている。	
(10) 情報化に対応する教育の推進	一人一人のこどもが、情報モラルを含む情報活用能力を身に付けることができるよう、系統的・体系的な情報教育の推進に努める。	<p>【小学校】</p> <p>令和2年度に整備された一人一台のタブレット端末を、授業の中で積極的に活用できるようになった。考えの共有、作品づくり、レポート提出、AIドリルなど、学習の目的に応じた活用が進んだ。</p> <p>情報モラル教育では、中学校区で連携して作成した「大鰐小・中学校 ゲームやスマホの『五つの約束』」を、家庭への啓発として行い、学校と家庭が協力して児童の情報機器の適切な利用を促してきた。今後も、各教科のどの場面で、どのようにICT機器を効果的に活用するのか、また何のために用いるのかを吟味しながら指導を進めていきたい。あわせて、複雑化し見えにくくなっているSNSの利用も含め、情報教育の指導計画を見直しつつ、より適切な活用につなげていきたい。</p>	A
		<p>【中学校】</p> <p>1人1台端末や電子黒板、デジタル教科書を各学年で使い、各教科・領域の授業だけでなく学校行事などで効果的に活用できている。さらに、AI型ドリルを導入して活用することで、生徒の意欲向上に繋がっ</p>	A

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
		<p>た。</p> <p>また、教職員も校務用P Cや校務支援システムを活用することで、事務負担の軽減と多忙化解消に繋がっている。</p> <p>情報モラル教育については、①教頭による情報モラル教室の実施、②小中連携での取組「ゲームやスマホの『五つの約束』」の活用と配布、③全校朝会や学年集会での注意喚起を行った。</p>	
(11)研修の充実	<p>教員等の資質を高め、教育活動の充実を図るため、計画的・実践的な研修の充実に努める。</p>	<p>【小学校】</p> <p>校内研修では、提案授業の実施や、組織的かつ継続的な研修を推進することで、授業力の向上を図ってきた。働き方改革の視点と授業の充実を両立させるため、指導案はA 4版1枚に簡略化したが、言語活動の充実や児童一人一人の個別最適な学びの保障を目指した授業を展開した。</p> <p>今年度も、研修主任の発案による負担軽減を図った「プチ授業」(指導案なしでの授業公開)を実施し、気軽に授業公開・授業参観ができる雰囲気が醸成された。研究授業後にはワークショップ型の協議会を開き、職員が主体的に研修に取り組む姿勢や学びの共有が見られた。校外研修への参加も、可能な限り奨励してきた。</p> <p>大鰐小学校の職員の優れた点は、互いに学び合い、高め合うことで、自ら得た技術を他の職員と共有し合えるところ</p>	A

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
		<p>にあり、その姿勢が児童にもよい影響を与えている（１２月：実践交流会実施）。</p> <p>今後も研究授業や研修で得た学びを普段の授業で活用し、向上心をもって授業改善に取り組むよう研修を充実させていきたい。</p>	
		<p>【中学校】</p> <p>校内研修のテーマ「自ら考え、共に学びを深められる生徒の育成」～個を大切にし、学び合う学習活動を通して、考えを広げ深める授業づくりを目指して～を基に、指導主事等による計画訪問、教職員全員による道徳の授業実践（一人一公開授業）、eラインズによるA I型ドリルに付いての研修、S S Wを活用した構成的グループエンカウターの校内研修会、校外研修（県教育センター、中南教育事務所等）などへの積極的な参加を促すなど取り組んできた。その成果として、生徒意識調査等における生徒の授業に取り組む意識の向上、授業参観者からの授業づくりの取組を高く評価するコメント、学校評価結果が高評価であったことが成果として挙げられる。</p>	A

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
(12) 幼児教育の充実	遊びや生活の中で生きる力の基礎を培い、幼保と小学校の連携を促進する。	<p>【小学校】</p> <p>幼保こ・小の連携事業として、各幼稚園・保育園・こども園を訪問し、年長児の様子を参観したり、情報交換を行ったりした。就学児について情報共有を行うことで、幼保こ・小の連携を深めるとともに、本校教職員全員で事前に共通理解を図り、次年度に向けた指導・支援体制を整備することができた。</p> <p>また、例年2月に本校で実施している交流会では、年長児を招待し、本校1年生との交流（授業見学、授業参加等）を行うことで、年長児の小1プロブレムの解消につながるとともに、本校1年生の成長にも寄与した。</p> <p>今後も、幼保こ・小のさらなる連携を目指して取り組んでいきたい。</p>	A
(13) 安全・安心な教育環境の整備	学ぶ意思のあるこどもたちが安全・安心に教育を受ける環境づくりを推進する。	<p>【小学校】</p> <p>学校安全（生活・交通・災害）計画に基づき、各教科・各領域で横断的な安全学習・安全指導を実施するとともに、避難訓練や交通安全教室などの学校行事を通して、命を守ることの大切さや危険回避能力を、発達段階に応じて指導することができた。</p> <p>令和7年度に見直し・改善を行った危機管理マニュアルは職員会議で提示し、全職員で共通理解を図った。また、町保健福祉課や警察機関と連携し、S</p>	A

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
		<p>OS の出し方教室や不審者対応訓練を実施し、適切な対処方法を確認することができた。就学援助等が必要な保護者には、随時情報提供を行い、支援につなげてきた。</p> <p>今後は、危機管理マニュアルを保護者にも周知し、学校・家庭が一体となって安全・安心な教育環境を整えていけるようにしていきたい。</p>	
		<p>【中学校】</p> <p>生徒指導記録簿を活用した職員室内での情報共有、学年・主任会議での情報交換などを推進することで、いじめや不登校等の未然防止・早期発見・対応など効果的に取り組めた。</p> <p>また、各学年の発達段階に応じた安全教育を計画的に実施したことで、生徒の意識向上に繋がった。</p> <p>施設等の安全管理は、日常での点検に加えて、月に1回の安全点検、教育委員会との連携により、迅速な対応ができた。</p>	A
(14)教員がこどもと向き合う時間の確保	教職員が心身にゆとりを持ってこどもと向き合う時間を確保することにより、こどもたちがきめ細やかな指導を受けられる環境づくりをする。	<p>【小学校】</p> <p>学校改善レシピ（校長作成）をもとに、時期を区切り、見通しをもって働き方改革を推進することができた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・欠席連絡フォームの継続 ・通知表の簡略化 ・学校文集の休止（フォーマットを変更して継続） ・アンケートフォームの活用 ・A I ドリルの導入 ・自動採点システム導入に向 	A

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
		<p>けた準備（情報収集）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高学年教員の負担軽減（専科教員の活用） ・部活動の地域移行・展開（段階的に実施予定、外部講師の処遇を検討） <p>これらの取組により、教職員が心身にゆとりをもち、児童と向き合う時間を確保しやすい環境づくりが進んだ。</p> <p>今後も、学校内外の業務内容の改善・見直しを図りながら、働き方改革をさらに推進していきたい。</p>	
		<p>【中学校】</p> <p>部活動の地域移行（クラブ化）と部活動の精選、部活動指導員・外部コーチの配置、部活動顧問の複数配置により、負担軽減に繋がった。</p> <p>また、校務支援システムの活用、会議資料の電子データ化など I C T を活用した校務の効率化を推進することで、事務作業の効率化が進んだ。</p> <p>町教育支援員が 3 人配置されたことで、授業補助や別室登校への対応、学年掲示の整備等の負担軽減に繋がり、きめ細やかな指導をすることができた</p> <p>時間外勤務時間の削減のために、行事の精選や教育課程、業務内容の見直しが課題である。</p>	B

2 社会教育の推進

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
(1)学校・家庭・地域の連携・協働による未来を担う人財の育成	未来を担う人財である子どもたちが心豊かでたくましく成長するよう、多様な体験活動等を通して育成するとともに、学校・家庭・地域がそれぞれの役割を果たしつつ、教職員、保護者、地域住民が連携・協働して社会全体で子どもたちを育むことができるよう努める。	<p>ふるさと子ども教室において、大鰐町の特徴を活かす体験活動事業として、アウトドア満喫編では、マス釣り、火起こし、炊事等の実施。地域の方を講師として小中学校での出前俳句教室の指導を行っているほか、冬休みには、郷土の俳人増田手古奈氏の俳句カルタを用いた「わにっこカルタ大会」を社会教育委員等地域の方々の協力を得ながら実施した。</p> <p>小学5・6年生10名がOH鰐！！元気隊とともに地場産品の販売・宣伝等の体験のため、東京で活動した。販売・宣伝等の体験やお客さんや青森県出身の経営者や県人会の方々との交流を通じて様々な仕事の存在を知る機会となり、大鰐町の特徴を活かし、子どもたちが故郷への関心と知識を高める体験活動となった。</p> <p>また、通学指導員及び大鰐町青少年健全育成連絡協議会による駅前の民間交番「わにっこ安心ステーション」の運営においても地域全体で子どもを見守りのほか、放課後等に子どもが安心して活動できる場の確保と心豊かで健やかに育まれる環境づくりとして放課後子ども教室を実施している。サポーター養成のため、県主催の研修会に参加するなど、充実した家庭教育支援が</p>	A

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
		<p>できる体制づくりに力を注いでいる。</p> <p>また、公民館図書室においても、話題性のあるものや要望のあったものをその都度調達するとともに、掲示物の配置に気を配るなど利用者の読書意欲の向上に努め、放課後子ども教室においても読み聞かせ活動を定期的実施し、多くの本に触れる機会を設けている。</p> <p>令和7年4月に第4次大鰐町子ども読書活動推進計画を策定した。</p>	
(2) 地域の強みを生かした地域づくりを担う人財の育成	<p>地域の強みを生かした豊かで住みよい地域社会や持続的な地域コミュニティを形成するために、地域活動に主体的に取り組む人財や地域の時代を担う若者を育成するとともに、人財相互のネットワークづくりに努める。</p>	<p>コミュニティ・スクールを導入しているため、各学校で学校運営協議会を運営、教育委員会で地域学校運営協議会を運営し、地域コーディネーターを選出した。地域コーディネーターが学校や地域と連携しキャリア教育活動等の総合的な調整を図ることができた。</p> <p>地域活動を実施している団体代表者や個人からの相談や連絡を受け、地域イベント等に対する参加や協力を行い、地域の次代を担う若者の育成につながることができてきている。</p> <p>また、地域活動に関わる人財のネットワーク形成の支援についても、令和7年度もふるさと子ども教室を開催し、地元講師の活用をすることができた。</p> <p>また、町内イベント等に様々な形で社会教育団体やそ</p>	A

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
		の会員が協力しており、団体等に対して町内のイベント等に関わってもらうことでつながりをつくることができた。	
(3) 人生100年時代の学び直しや生涯学習の推進	地域住民の主体的なキャリア形成を促すため、産学官民によるネットワークを活用する等、学び直しやリカレント教育の機会を充実させ、誰もが生涯にわたって意欲を持って学び、教養や能力を高め、活躍していく環境づくりに努める。	<p>成人大学・ふるさと子ども教室・放課後子ども教室・俳句教室等において町内外の機関からの講師派遣等の協力を得て学習の機会を設けた。</p> <p>成人大学では、お菓の話、大鰐の遺跡、終活、モルック大会、工場見学等を幅広い分野で開催した。学習成果を発揮できる場を町内外に限らず広げている。</p> <p>また、清掃、花植え活動やスキー場の草刈りボランティアは関係機関から各年代が参加し、地域ぐるみの社会参加活動となっている。</p>	A
(4) 社会教育推進のための基盤整備	多様化する学習ニーズや地域課題等、様々な社会の要請に対応するため、優れた資質と専門的な能力をもった社会教育関係職員の養成に努める必要がある。また、地域住民の学習活動や交流活動の拠点である社会教育施設の機能の充実及び社会教育関係団体や学習グループ等の活動の支援に努める。	<p>町社会教育行政の方針と重点に基づき事業を展開するとともに、社会教育委員や参加者の意見を基に事業内容の見直しを図ってきた。</p> <p>多様化する学習ニーズや地域課題等、様々な社会の要請に対応するため、社会教育関係事業に関する各種会議へ積極的に職員の派遣や社会教育主事の計画的な養成にも努めていきたい。</p> <p>また、地域住民の学習活動や交流活動の拠点である中央公民館について、図書管理システムの導入から9年が経過し図書室利用者の増加、県立図書館</p>	B

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
		<p>との相互貸借により多く町民が図書に親しむ体制が整備している。</p> <p>公民館運営審議委員の意見も取り入れながら更なる機能の充実と活用の促進をしていきたい。</p> <p>町内の各社会教育団体への補助金の交付や団体活動への職員の参加など団体活動の支援を行い、活動の支援に努めた。</p>	

3 文化財の保護活用

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
(1)文化財の保護・保存	かけがえのない文化財を次代に伝えるため、適切に管理し、保護・保存に努める。	令和7年度は居士熊野神社のさんすけ標柱修繕及び居士いちょう標柱修繕えお実施した。今後修繕が必要であろう各標柱等の状況を適切に把握し、優先順位を設定しながら引き続き保護及び保存活動を実施していきたい。	A
(2)文化財の公開・活用	町民が文化財に興味・関心を持ち、親しめるよう、公開・活用と情報発信に努める。	小学校の授業の中で町内を探検する際に実際に文化財を見て学んでいる。 また、青森県埋蔵文化財調査センターで作製した「あおもり縄文カード」を公民館に設置し、配付することで町民のみならず多数の人が町内の文化財を知るきっかけになっている。	B
(3)伝統芸能・技術の継承	地域で育まれ、保存・伝承されてきた伝統芸能や技術の継承に努める。	町文化祭で県指定文化財である三ツ目内獅子踊りや町指定文化財である登山囃子を披露する機会を設けているが、令和7年度は中止となった。 各伝統芸能保存団体より、後継者の減少の声が聞かれていることから、募集活動の支援を検討していきたい。	B
(4)文化資源を活用した交流	こどもの頃から芸術・文化に触れ親しむ機会を設けることを促進し、文化資源を活用した交流に努める。	小学校の授業の中で町内を探検する際に実際に文化財を見て学んでいる。	B

4 生涯スポーツの振興

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
(1) 学校体育・スポーツの充実	児童生徒が、豊かなスポーツライフの実現を目指し、自ら進んで運動に親しむ資質・能力を身に付け、健康保持増進と体力の向上を図ることができるよう、学校体育・スポーツの充実に努める。	<p>地域の特色であるアルペン・クロスカントリースキーを親しみやすく・楽しめるような環境づくりをして町内児童・生徒の体育・健康教育の振興を図るために、スキー場リフト券の助成を実施した。</p> <p>令和7年度は、雪不足もなくスキー場の営業期間も通常通りとなり、460人が利用し、多くの児童生徒が地域の特色であるスキーに親しみ、冬季スポーツに触れる機会を創出した。</p>	A
(2) 健康教育の充実	児童生徒が心身ともに健康で安全な生活について理解し実践できるよう、学校、家庭、地域社会の連携を図り、学校保健、学校における食育及び学校安全を総合的に推進し、健康教育の充実に努める。	<p>町給食センター栄養教諭及び学校担当教諭が連携し、地元の食材や特産品を使用しながら、地産地消の食育活動を行うことができた。</p> <p>令和7年度は、前年度並みの使用量・金額実績で地場産品を取り入れることができた。</p> <p>食材やメニューの工夫を行い、地元の食材をより多く活用し、児童・生徒の地元へ興味を高めつつ、食物アレルギー対応など、安全な給食の確保をより一層図って行きたい。</p>	A
(3) スポーツの推進	町民が生涯にわたり豊かなスポーツライフを実現できるよう、スポーツに親しむ環境づくりの充実に図り、スポーツの推進に努める。	大鰐町を代表するスキー競技は、令和8年度の冬には第100回全日本学生スキー選手権の開催地になるため、各競技団体からの要望などを参考に国スポ開催に向けて準備を進めている。大会時に事務局として使用する予定の旧大鰐第二	B

主要施策	目的等	成果・課題等	評価
		<p>小学校施設についても必要な設備を整えてきた。</p> <p>虹貝多目的広場は、雪害により、野球場のバックネットポールが折れていたため、速やかに撤去した。昨年同様、利用者が安心・安全に利用できるよう環境整備を実施した。</p>	

Ⅷ 令和7年度 主な事業と経費及び成果等

事業名	区分	決算額 (千円)	事業内容	成果等
特別支援教育推進事業		20,245	小、中学校の普通学級に在籍する学習障害や多動傾向等により特別な配慮を必要とする児童生徒の学校生活の支援を行うため、教育支援員を配置。	小学校に3人、中学校に3人の支援員を配置し、支援が必要な児童生徒に手厚い対応を行うことができた。
A L T招致事業		5,055	人件費 4,654,904 円 旅費 2,575 円 需用費 99,976 円 役務費 70,814 円 住宅借上 72,626 円 備品購入費 32,780 円 <u>負担金 120,840 円</u> 計 5,054,515 円	町立小・中学校に外国語指導助手を配置することによって、生きた英語を体験することができる。また、スピーチコンテストや英検の面接の練習を手伝い、リスニング及びスピーキング能力の向上に寄与した。
スクールバス運行事業		10,596	長峰・駒ノ台方面 3,749,130 円 島田・早瀬野方面 2,931,390 円 <u>居土・三ツ目内方面 3,915,450 円</u> 計 10,595,970 円	遠方から通学する児童のためスクールバスを運行し、児童の登下校の安全を確保することができた。
小学校改修事業		1,837	大鰐小学校玄関外部通路改修工事 1,837,000 円	学校施設・設備等の改修工事等を実施することにより、学校施設等及び教育環境の適正な維持管理が図られた。

区分 事業名	決算額 (千円)	事業内容	成果等
中学校校舎暖房 機更新事業	6,428	大鰐中学校の既設暖房機器は平成22年度に設置したものであり、現在メーカーでは部品の取扱いが終了しているため、修繕が生じた際は使用頻度の低い機器を部品の流用元とすることで対応している。将来的には既存の暖房機器の使用が困難となり、冬期間における生徒及び教職員の健康及び学校生活に支障をきたす恐れがあるため、暖房機の計画的な更新をする。	暖房機を更新することにより、生徒及び教職員が安心して暖かく過ごすことができる環境を整備することができ、心身ともにより充実した学校生活を送ることができた。
生きる力育成事業補助金	1,042	<p>「確かな学力」「健やかな体」「豊かな心」などの「生きる力」を育むために、決められた予算内において学校長の裁量で自由に予算を執行できる。</p> <p>大鰐小 668,000 円 大鰐中 374,000 円 計 1,042,000 円</p>	<p>小学校では鰐っこ暗唱詩集を作成し、文芸作品を暗唱させることで、文学的興味や関心を高めるとともに、豊かな心を育むことができた。また、スキー教室の実施に当たり、スキー指導講師及び施設整備を依頼し、児童が恵まれた環境でスキーを学ぶことにより、ふるさとへの愛着を育むことができた。</p> <p>中学校では、学力の向上を図る取り組みとして、問題集の購入や、実力テストを実施して学力の分析を行っている。また、総合的な学習の時間において「いのちの健康教室」</p>

事業名	区分	決算額 (千円)	事業内容	成果等
				及び「キャリア講話」を実施し、「いのちの健康教室」では生まれてきたことに感謝の気持ちを抱かせることができ、「キャリア講話」では生徒が夢や目標をもって勉強や部活動等に取り組めるよう、自らの生き方を考える機会を与えることができた。
スポーツ・文化活動支援事業		5,493	<p>小、中学校におけるスポーツ・文化活動の充実及び発展を図るため、児童生徒が選手として対外競技会等に参加するための費用を補助する。</p> <p>小学生のスポーツ及び文化振興を図るため1人当たり3千円まで助成金を交付する。</p> <p>大会派遣補助金 5,217,000 円 活動支援助成金 276,000 円 計 5,493,000 円</p>	<p>大会に参加する際の経費について補助することにより、トップレベルの競技を体感でき、向上心の醸成と技術の向上が図れ、他県の児童生徒との交流など、貴重な体験をさせることができた。</p> <p>小学生のスポーツ・文化活動に係る会費や大会参加費に対し助成することにより、小学生のスポーツ及び文化振興を図ることができた。</p>
小学校扶助費		3,284	<p>特別支援就学奨励費 学用品費等 93,490 円</p> <p>就学援助費 学用品費等 1,069,055 円 遠距離通学費 749,850 円 計 1,818,905 円</p>	<p>【就学援助費・特別支援就学奨励費】</p> <p>経済的理由により、就学困難な児童生徒の保護者及び特別支援学級で学ぶ児童生徒の保護者等に対して、教育</p>

事業名 / 区分	決算額 (千円)	事業内容	成果等
中学校扶助費	2,009	<p>特別支援就学奨励費 学用品費等 189,835 円</p> <p>就学援助費 学用品費等 1,069,055 円 <u>遠距離通学費 749,850 円</u> 計 1,818,905 円</p>	<p>を受ける上で必要な学用品費等の扶助をしたことにより、義務教育の円滑な実施がなされた。</p> <p>◇扶助対象者 小学生 36 名 中学生 19 名</p> <p>【遠距離通学費】 遠距離地域から通学する児童生徒の保護者に対して、通学費の全額又は一部を扶助したことにより、保護者の経済的負担の軽減と義務教育の円滑な実施がなされた。</p> <p>◇扶助対象者 小学生 42 名 中学生 9 名</p>
放課後子ども教室推進事業	1,459	放課後子ども対策事業 教育活動サポーター、コーディネーター謝礼金等	中央公民館で、小学校の長期休業中を除く月曜日から金曜日の放課後に実施。放課後における子供の安全、安心な居場所づくりと、学習支援及び体験活動を実施することができた。
中央公民館改修事業	2,288	中央公民館非常用照明設備改修工事 2,288,000 円	消防設備点検で指摘のあった非常用照明設備の改修を実施し、公民館利用者の安心・安全を守ることができた。

区分 事業名	決算額 (千円)	事業内容	成果等
各体育団体補助金	2,360	町スポーツ協会補助金 1,335,571 円 県民駅伝競走大会補助金 731,999 円 県中学校・高等学校スキー大会補助金 219,000 円 東北高等学校スキー大会補助金 73,000 円	青森県民駅伝競走大会において、これまで練習した成果を発揮し、町の部 5 位の成績を残した。 各種スキー大会においては、例年以上の降雪で多少の倒木等の被害はあったものの、競技役員の尽力により大会は無事に実施された。
小中学校スキー振興事業	614	児童、生徒のスキーリフト使用料（1 日券）について助成 ○利用人数及び助成金額 小学生 347 人 416,400 円 中学生 113 人 197,750 円 計 460 人 614,150 円	町内の児童生徒を対象にスキー場のリフト使用料（1 日券）を助成した。 多くの児童生徒が地域の特色であるスキーに親しみ、冬季スポーツに触れる機会を創出した。
虹貝多目的広場管理費	1,667	環境整備業務委託料等 1,045,880 円 （草刈り、薬剤散布、支障木伐採等） 消耗品、水道光熱費等 166,366 円 AED（除細動器）リース料他 208,629 円 工事費 246,400 円	大雪の影響により野球場物置、バックネットが破損していたため、物置の新設、バックネットの修繕を行った。今後も、利用者が安全に安心して気持ち良く利用できる施設になるよう改善に努める。
国民スポーツ大会冬季大会準備事業	16,250	第80回国民スポーツ大会冬季大会スキー競技会開催事業補助金 14,203,430 円 旅費 13,200 円 車借上げ料 1,478,400 円	第 80 回国民スポーツ大会冬季大会スキー競技会が令和 8 年 2 月に開催され、大雪の影響が心配されたものの、自衛隊及び競技役員

事業名 / 区分	決算額 (千円)	事業内容	成果等
		スキー大会用ホームページ運用 保守等 206,377円 燃料費、消耗品等 348,684円 <hr/> 計 16,250,091円	等、大勢の方々の支援を受け、無事成功裏に大会が終了した。
国民スポーツ大会冬季大会施設整備事業	305,463	消耗品、燃料費 673,648円 修繕料（コース整備車両点検、施設修繕等） 3,065,331円 共済保険料等 320,080円 委託料（設計、支障木伐採業務ほか） 3,875,850円 工事費（国スポ施設整備） 297,528,000円 <hr/> 計 305,462,909円	第80回国民スポーツ大会冬季大会スキー競技会開催に合わせ、競技施設の整備を行った。大会開催までにすべての工事を完了し、大会運営が円滑かつ効率的に行われた。

IX 評価委員による点検・評価

【教育委員会会議について】

- ・ 教育委員により会議は毎月一回を原則とし年 12 回開催された。事務局から業務報告を受け学校教育や社会教育等の事情の把握を行っている。また「大鰐町立中学校の教育職員に関する業務量管理健康確保措置実施計画について」といった議題 12 件について討議した。会議以外にも入学式や卒業式、運動会などの行事をはじめ「大鰐町二十歳の集い」等の行事に参加している。また南地方市町村教育委員会事務連絡協議会主催の研修会等にも参加し、研鑽に努めるとともに他の自治体の教育委員との交流を図っている。活動は概ね適切に行われている。
- ・ 定例会が計画的に開催されている。その中で教育長の業務内容が報告され、教育委員間で内容の共有化がなされている。なお、学校教育の推進の項目に「幼児教育の充実」が新設されたが、本委員会においてもそれに向けた取り組みが前向きになされている。

【学校教育の推進について】

- ・ 生徒一人ひとりの成長を育む視点が貫かれており小中学校ともに大きな成果を上げている。各科ごとの研究も追求され、特別活動等を通じた生徒の成長への配慮も手厚い。キャリア教育では、PTA との連携も実現しており、地域の組織・団体・個人との協働も志向されている。今後は熱中症に象徴される地球温暖化や SDGS への課題も追求していく必要があるのではないか。生成 AI についても、その利便性とともな犯罪に巻き込まれる危険性や依存症への対策等をふまえ、他国の議論をふまえた対応は求められる。
- ・ 「授業の充実」については、小学校では「読解力を身に付け、考えを深める児童」、中学校では「個別最適な学び、協働的な学びを深める生徒」を育成することを目指して、教員間で共通理解を図りながら取り組んでいる様子が伺われる。その結果、小学校では CRT、中学校では NRT の学力検査において全国平均を上回るなど成果を上げている。小学校においては、主体的・対話的で深い学びを取り入れた授業改善が進められ、自分の考えと他者の考えを関連づけて自分の学びを振り返るなど深みのある授業が展開できている。中学校においては、生徒意識調査の結果、授業への主体性、学習意欲、家庭学習の習慣化が身についたと答える生徒が増えている。また、全体的な知能検査では偏差値 46 であるが、NRT の学力検査は偏差値 50 を達成するなど学習指導の成果が上がっている。課題としては、小学校は学習規律や学習態度等の育成、中学校は個への対応を挙げている。今後も小中学校の系統性をさらに高め、協働的な学びを深める授業改善に取り組んでいただきたい。
- ・ 「生徒指導の充実」については、小中学校ともに重大ないじめ事案が発生していない。問題行動については中学校で 1 件報告されているが、警察機関と連携を図りながら取り組

みを継続しており、全体的に落ち着いた学校生活を送っている。小学校では、共感的に指導・支援をしながら自己指導能力を高める教育を全教育活動で行うことによって、児童が自信を深めるなど成果を上げている。また、不登校児童の安否確認や学びの保障の観点から、オンラインでの健康観察や授業、AIドリルを活用する取り組みを進めており、今後も一人一人を活かす指導を進めていきたい。中学校では、「子ども支援の視点に立った生徒指導」「困った行動をする生徒とは、課題を抱えて困っていると教師が理解する生徒指導」の2点に基づいた指導を継続している。その結果、教員と生徒や生徒同士の人間関係が良好で、安心して学校生活を過ごしている様子が伺われる。特に中学校では、特別活動の充実に努めており、運動会や鰯中祭などで縦割りでの活動を意図的・計画的に進め、生徒指導の充実につなげている。縦割り班での活動は小学校でも取り組んでおり、今後も小中学校が連携して指導を進めていきたい。

「キャリア教育の推進」については、小学校では「OH！鰯元気隊キッズ」による活動を通した町の清掃活動や東京での販売活動、また昨年度に引き続き、PTA総務委員会が町と連携した看護師体験・介護体験・救急救命体験などの「町活応援ワークショップ」を実施し、児童に充実感や達成感をもたせ故郷への愛情を育むことにつなげている。中学校では、各学年の体験学習（1学年「町内ではたらく人との対話集会」、2学年「職業体験」、3学年「ふれあいミーティング」）を行い、地域の方々との触れ合いの中で学習活動を進め、「働くこと」や「学ぶ意義」に加え自己の生き方を深めることにつなげている。このように小中学校が多く地域の方々と触れ合う中で教育活動を行っており、今後も情報交換をしながら、児童生徒が社会的・職業的な自立ができるよう必要な資質や能力を育てていきたい。

【社会教育の振興推進について】

- ・ 協働による未来を担う人財の育成において「学校家庭地域の連携」、「ふるさと子ども教室」といった事業を通じて、教職員、保護者、地域住民が連携・協働した「人財育成」が図られている。様々な体験活動を通じ、また地域の人々と交流をすることで学びとることは多い。

「放課後子ども教室」や「読書活動」などでも大きな成果を上げている。地域コーディネーターを軸とした地域づくりも成果をあげている。「人生100年時代の学び直し」においても多様な学習機会が提供されている。今後も住民のニーズを踏まえ、これまでの活動の蓄積を生かした事業展開を期待したい。

- ・ 「未来を担う人材の育成」については、ふるさと子ども教室において、マス釣り・火起こし・炊事等（アウトドア満喫編）に取り組んでいる。また小中学校での俳句教室に講師を派遣し教育活動を支えている。このように大鰯町の自然や独自の文化環境を活かした体

験活動は、児童生徒が郷土を愛し健全に成長発達していくためにとても重要なことであり、今後も継続して取り組んでいただきたい。

「人生100年時代の学び直しや生涯学習の推進」については、成人大学・俳句教室等の学習機会を設けている。特に成人大学では、お薬の話・大鰐の遺跡・終活・モルック大会を開催するなど受講者の興味に沿った事業が展開されており、今後も町民のニーズを随時把握しながら取り組んでいただきたい。

【文化財の保護活用について】

- ・ 「文化財の保護保存」では歴史的価値の高い標柱の修繕がされている。「文化財の公開活用」ではより積極的に「縄文カード」の活用が期待されており、北海道・北東北縄文遺跡群との関連も視野に入れる必要があるのではないかと。また、地域の歴史文化を継承発展させるという意味では、高度経済成長期までの生活文化（食、遊び、音楽等）や年中行事の継承を世代間交流の中で追求したり、「俳句の町」として俳句の魅力を前面に出した取組も必要とされているのではないかと。
- ・ 「文化財の公開・活用」については、町の文化財を実際に見学する小学校の授業を支援している。また、青森県埋蔵文化財調査センターで作製した「あおもり縄文カード」を公民館に設置し配布することで、町民が本町の文化財を知るきっかけにつなげており、今後も継続して取り組んでいただきたい。

「伝統芸能・技術の継承」については、「三ツ目内獅子踊り」や町指定文化財である「登山囃子」の活動支援に取り組んでいるが、児童生徒の少子化ならびに価値観の多様化の影響もあり、後継者が不足している現状である。その対応については近隣市町村とも情報交換をしながら、良い方向に改善できるよう取り組んでいただきたい。

【生涯スポーツの振興について】

- ・ 「学校教育スポーツ」では全国的にスキー人口が減少する中、大鰐町の特色をいかしたアルペンスキーを重視し事業を行っている。スキーはウィンタースポーツを代表するものであり、児童生徒へのリフト助成も重要である。また全国規模のスキー大会が開催できる地域としても整備が求められるところである。「食育」については、子どもの成長発達地産地消なども視野に入れた実践として長年積み重ねられてきているが、その成果をふまえ、今後は成人・高齢者を対象とした取組を追求していただきたい。
- ・ 「学校体育・スポーツの充実」については、町内児童生徒に対してスキー場リフト券の助成をしているが、7年度は460人の利用につなげている。今後も小中学校や関係機関とも連携し、児童生徒や町民の興味関心に沿った形での取り組みを進めていただきたい。

「スポーツの推進」については、令和８年度冬に第１００回全日本学生スキー選手権を控えているが、主催当局と地元大鰐町の特色を活かした有意義な大会になるよう準備を進めていただきたい。また、雪害により破損した虹貝多目的広場施設（野球場）を速やかに修繕し、町民のスポーツ活動を支えている。特に本町は、従来からのスキーに加えて、近年野球で活躍する小中高校生も顕著であり、今後も成人を含めた生涯スポーツ環境の整備を進めていただきたい。